

公益財団法人日本海事センター

第4 1回評議員会議事録

- 1 開催場所 海事センタービル「4階会議室」
- 2 開催日時 令和6年3月6日(水) 13時～13時45分
- 3 評議員現在数及び定足数
現在数 11名、定足数6名
- 4 出席評議員 8名
(本人出席) 片岡 徹、河野真理子、白石昌己、杉山武彦、羽尾一郎、
羽原敬二、春成 誠、宮崎達彦
(ウェブ出席) なし
(欠 席) 谷水一雄、當舎裕巳、廣瀬隆史
(出席理事) 宿利正史、平垣内久隆、下野元也
(出席監事) 石川 尚
(議案説明及び報告) 下野元也常務理事
- 5 議 案 第1号議案「令和6年度事業計画書及び収支予算書等の承認」
について
報告事項 ①第6 1回～第6 4回理事会の決議内容について
- 6 会議の概要
(1) 定足数の確認
冒頭で国安総務部長から、定足数の充足を確認した。
(2) 議案の審議状況及び議決結果
宿利正史会長の挨拶に続き議長互選の提案を行い、河野真理子評議員を出席評議員全員一致で議長に選出した。
議長が、本評議員会の議事録署名人2名の選出について諮ったところ、片岡 徹評議員、春成 誠評議員を、出席評議員全員一致で議事録署名人に選出した。

(決議事項)
第1号議案「令和6年度事業計画書及び収支予算書等の承認」について
議長の求めに応じ、下野元也常務理事から「令和6年度事業計画書(案)」、「収支予算書(案)」及び「資金調達及び設備投資の見込み」について議案説明があった。
また、次のような質疑があった。

(春成評議員)
気候変動対策としての脱炭素化について、IMO の対応は進んでいな

いと思われる。例えば、GHG 削減対策でアンモニア船等の推進が掲げられたが、その後進んでおらず、どういう戦略で行くのか IMO 自体も明確でないので、IMO に対しても提言した方がいいのではないかと。

(下野常務理事)

昨年の MEPC80 で、IMO としての国際海運の GHG 削減を 2050 年までにカーボンニュートラルにするという今までの目標をさらに前進させた目標が合意された。ただし、どういうプロセスでどういう戦略でやっていくのか。GHG をより前倒しで削減していくために我々が関与しているのは経済的手法の分野であり、課税をした上で還付する形で後押しをする取組について、MEPC81 でなんとか合意できるのではないかと状況にある。しかしながら、適格燃料、具体的にどういった燃料でやっていくかということについては試行錯誤の状況にある。EU も IMO に先行して EU-ETS を始めたという状況にもある。我々も日本の国際競争力強化につながる有意義な提案をしていきたい。

(平垣内理事長)

環境の問題は今までの安全規制等と違って、別のところで動いていくのではないかと。荷主である東証上場企業は TCFD の開示義務がかかるし、また、例えば自動車会社が EU に輸出する際、Scope3 という製品のすべての過程で脱炭素を管理しなければいけないという規制がかかるので、関係国が多く最大公約数的な IMO とは別のところで議論がどんどん進んでいくと思われる。そのため、いずれにせよ郵船はアンモニア船、マースクはメタノール船というように、現段階では試行錯誤の状況であるが、あらゆる手段を駆使して対応していくこととなる。そうした中で、我々は IMO を中心に活動するのは基本として大事だが、セミナー等では気候問題、環境問題については、従来の海事関係者だけでなく、商社や荷主に範囲を広げていかないといけないという問題意識を持っており、港湾や陸上部分を含めサプライチェーン全体で脱炭素化を考えていかないといけないと考えている。

審議の結果、原案どおり出席評議員全員一致で承認した。

(報告事項)

① 第 6 1 回～第 6 4 回理事会の決議内容について

下野元也常務理事から、第 6 1 回理事会（令和 5 年 6 月 8 日開催）、第 6 2 回理事会（令和 5 年 9 月 2 5 日開催、書面決議）、第 6 3 回理事会（令和 6 年 1 月 1 9 日開催、書面決議）、第 6 4 回理事会（令和 6 年 3 月 6 日開催）の決議内容の報告があり、了承された。

以上をもって議案の審議等を終了したので、13時45分、議長は閉会を宣し、解散した。

以上、この議事録が正確であることを証するため、議長及び議事録署名人は記名押印する。

令和6年3月6日

議 長 河野真理子

議事録署名人 片岡 徹

議事録署名人 春成 誠

本議事録の作成にかかわる職務を行った者の氏名
公益財団法人 日本海事センター
総務部長 国安 和美